

今月のことば

傷つけて

傷つくいのち

一つゆえ

(大神信章)

龍谷大学非常勤講師

小池 秀章 こいけ ひであき

『仏説阿彌陀經』というお経には、極楽浄土に共命鳥ごめいすけという仏さまの教えを説く鳥がいると説かれています。身体は一つで頭が二つに分かれている鳥で、文字通り、命を共有している鳥です。

また、別のお経には、「二つの頭は仲が悪く、相手を苦しめようとして毒の実を食べさせたけれど、身体が一つなので、結局一緒に死んでしまった」とあります。

共に、「私たちのいのちは、一つに繋がっている」ということを教えてくれます。

お釈迦さまは、すべてのいのちは一つに繋がっているということをも、「縁起」という言葉で教えてくださっています。「縁起」とは、すべてのものは、さまざまな関わり(縁)によって、成り立っている(生まれ起こっている)ということと、お互いにもちつもたれつの関係にあるということを言います。

私たちは、自分のいのちと他のいのちを切り離し、自分の幸せの為に、他のいのちを傷つけてしまっています。そしてそのことに何の疑問も持っていないかもしれません。しかし、本当は、他のいのちを傷つけることによって、自分のいのちも傷ついてしまっているのです。なぜなら、すべてのいのちは一つに繋がっているのですから。

自分のいのちと他のいのちを切り離さない、いや、切り離せないということに目覚めた方を、仏さま(さとつた方)と言います。自分のいのちと他のいのちを切り離し、お互い傷つけ合っている私たちのことを、心配していただく仏さまのお心を、忘れないようにしたいと思います。

合掌